

栗原の稲作通信

令和8年 第3号 令和8年6月30日発行

宮城県栗原農業改良普及センター
宮城県米づくり推進栗原地方本部
電話番号 0228-22-9404

○今後の栽培管理のポイント○

1. 目標茎数を確保したら、中干しを実施する
2. 斑点米カメムシ類の発生を抑制するため、畦畔や水田内の雑草防除を徹底する
3. 定期的にはほ場をまわり、いもち病の早期発見・早期防除に努める

1. 気象経過

○気温は6月上中旬とも概ね平年並みで、降水量は6月上旬は平年より多く、中旬は少なくなりました。日照時間は6月上旬は平年より少なく、中旬は多くなりました。

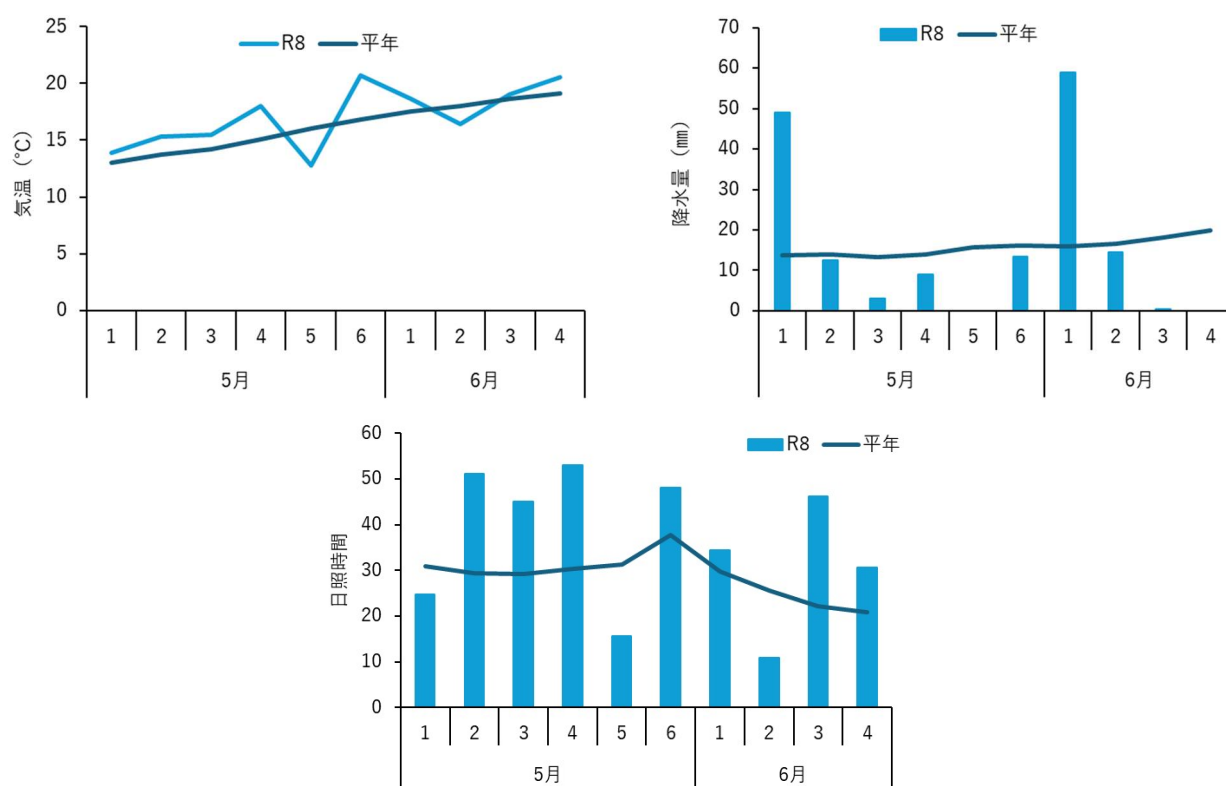


図1 5～6月の気象経過（築館アメダス）

2. 生育状況（6月19日現在）

1) 移植水稻

○古川農業試験場の5月11日移植の「ひとめぼれ」では、5月下旬以降、過去5年平年値よりやや低温の傾向が続いたことから、6月19日現在の草丈は平年比76%と平年を下回りました。茎数は98%と平年並ですが、葉色は平年差-1.4ポイントと低い状況です。葉数は平年より0.5枚少なく、生育ステージはやや遅れています。

○管内の「ひとめぼれ」の生育状況は、若柳では、草丈は平年より短く、茎数は平年より多く、葉数・葉色は平年並みでした。一迫では、草丈は平年より短く、茎数は平年よりやや少なく、葉数は平年より1.0枚少なく、葉色は平年差+3.0ポイント高い状況でした。

表1 6月19日 生育調査結果（移植水稻）

品 種	地区	田植日			草丈(cm)			茎数(本/㎡)			葉数(枚)			葉色(GM値)		
		本年	前年差	平年差	本年	前年比(%)	平年比(%)	本年	前年比(%)	平年比(%)	本年	前年差(枚)	平年差(枚)	本年	前年差	平年差
ひとめぼれ	若柳	5/20	1日遅	0日早	25.9	72	71	361	98	115	8.2	0.1	0.1	42.1	1.4	-1.8
ひとめぼれ	一迫	5/14	1日遅	2日遅	32.0	92	82	233	107	91	7.3	0.0	-1.0	44.7	5.5	3.0
ひとめぼれ	県平均	-	-	-	30.2	80	79	346	95	95	-	-	-	41.7	-1.7	-2.0
ひとめぼれ	古試	5/11	-	-	29.0	73	76	507	94	98	7.8	-0.6	-0.5	43.7	-1.9	-1.4
つや姫	築館	5/25	3日早	2日遅	29.8	88	79	152	98	82	7.3	-0.1	-0.0	41.8	2.0	-1.4

注1：平年値は過去3年間（令和5～7年）の平均値

注2：「ひとめぼれ 県平均」は県内各普及センター及び古川農業試験場における18地点の生育調査結果の平均

2) 乾田直播水稻

○管内の乾田直播ひとめぼれの生育状況は、草丈は 35 cm で前年と同程度、茎数は 160.2 本/㎡ で前年より少なく、葉色（GM 値）は 41.8 で前年と同程度でした。

3. 今後の栽培管理のポイント

1) 目標茎数を確保したら、中干しを実施する

○中干しの実施により、無効分げつの発生を抑えることができます。また、草姿が良くなり光合成能力が高まることで、登熟歩合を高めることができます。

○目標茎数の確保を確認してから中干しを行いましょう。

表2 品種別目標茎数の目安

品種	目標茎数（本/㎡）	1株当たり目標茎数（本/株）		
		50株植え	60株植え	70株植え
ひとめぼれ	410～460	27～30	23～25	19～22
ササニシキ	480～510	32～34	26～28	23～24
つや姫	400～440	26～29	22～24	19～21
だて正夢	350～400	—	19～22	17～19
金のいぶき	440～490	29～32	24～27	21～23

※参考値です。

中干しの判断はほ場全体の生育状況を見て行いましょう。

○中干しの期間は7～10日間とし、田面に小さな亀裂が入り、軽く足跡がつく程度とします。遅くとも幼穂形成期の前には終了しましょう。

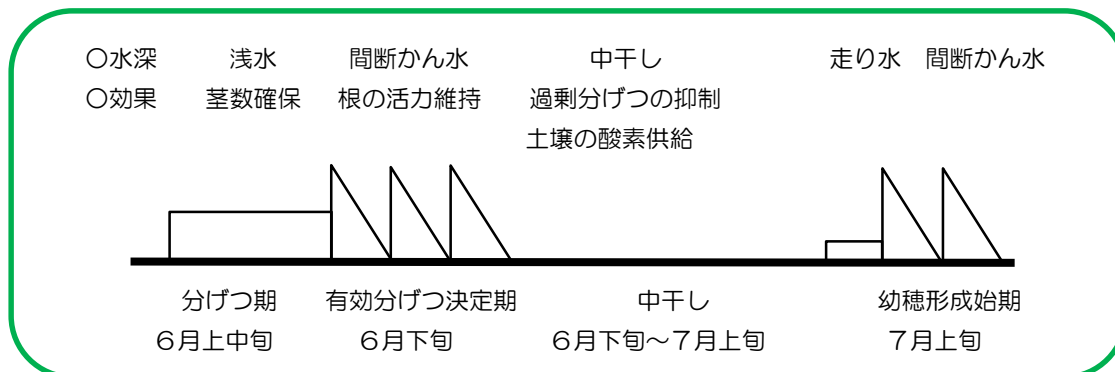


図2 今後の水管理体系

2) 水田内や畦畔の雑草防除を徹底し、斑点米カメムシ類の発生を抑えましょう。

○畦畔や農道、雑草地、休耕田等のイネ科雑草は、斑点米カメムシ類の増殖源となります。計画的な草刈りを行い、カメムシ類の増殖を抑えましょう。

※管内ではアカスジカスミカメの越冬世代の大半は6月中旬までに成虫となり、水田周辺のイネ科雑草に定着するとみられます。

○水田内のノビエ、イヌホタルイ、シズイ等の繁茂により、斑点米の原因となるアカスジカスミカメが水田内で増殖し被害が助長されます。残草が目立つ場合は、中期・後期除草剤等により追加防除を実施しましょう。

3) 定期的にほ場をまわり、いもち病の早期発見・早期防除に努めましょう。

○「BLASTAM : <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/blastam.html>」

○「金のいぶき」はいもち病に非常に弱い品種です。箱施用剤に加え水面施用剤による2回防除（6月中下旬及び7月中下旬）を必ず実施しましょう。

.....

◎お知らせ！

■農薬危害防止運動実施中 実施期間 6月1日～8月31日

農薬の使用に当たっては、必ずラベルに記載された適用病害虫、使用方法、最終有効年限等を確認し、定められた方法を厳守しましょう。最新の農薬登録情報は、農林水産消費安全技術センターのホームページで確認することができます。

■農作業中の熱中症に注意しましょう!!

熱中症死亡事故の約85%が7～8月に発生しています。熱中症は正しい知識を身に付けることで、適切に予防することが可能です。

【予防のポイント】

✓高温時の作業は避けましょう。

- ・農作業中の熱中症による死亡者数を年代別に見ると70代以上が約9割を占めています。高齢者の方は特に注意が必要となります。

✓単独作業は避けましょう。

- ・なるべく2人以上で作業し、時間を決めて声をかけあったり、異常がないか確認しあうようにしましょう。

✓20分おきに休憩&水分補給を行いましょう。

- ・涼しい日陰等で作業着を脱ぎ、体温を下げましょう。のどがかわいていなくても、20分おきに毎回コップ1～2杯以上を目安に水分補給しましょう。

✓熱中症対策アイテムを活用しましょう。

- ・帽子や吸湿速乾性の衣服、空調服や送風機、ウェアラブル端末等の活用により、熱中症リスク回避をしましょう。

.....